

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019 年 7 月 1 日 提出

1. 研究課題名	
ARC 古典籍データベースを利用した近世版本における「版(edition)」の変遷に関する研究 (英文標記: _____)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
松葉 涼子(まつばりょうこ)	Senior Digital Humanities Officer, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures
3. 研究分担者 (合計: _____ 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Ellis Timios(エリス・ティニオス)	リーズ大学名誉講師・立命館大学客員研究員
山本嘉孝(やまもと よしたか)	大阪大学・講師
John Resig(ジョン・レシグ)	Khan Academy・staff engineer
李増先(り・そうぜん)	立命館大学・ポスドクトラルフェロー
金子貴昭(かねこ たかあき)	立命館大学・准教授
Alessandro Bianchi	米国スミソニアン機構フィリアーアンドサックラーギャラリー・学芸員
平井華恵	大阪大学・大学院博士前期課程

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
本研究では ARC 古典籍データベースを利用して、近世版本の版の変遷について整理すること、そこから近世出版流通の様相を導きだすことを目的としている。ARC で継続的にすすめられているデジタル・アーカイブ活動を通して、高精細のデジタル画像が随時蓄積され、古典籍閲覧システムとして公開されている。版本もまた浮世絵などと同様に、状態を慎重に見比べることによって初印本と後印本の違いがわかる。2017 年は原本とデジタル画像の両方を使いながら『富嶽百景』の版の違いを検討していった。また、序文をよみながら版元と絵師との関連を読み解き、北斎版本として新たに出版されながらも、以前同じ版元、及び作者が使った内容を流用していることなどを明らかにした。2018 年度は以上の研究成果をどのように Web 上で共有できるかということに重点をおいてすすめる。

## 5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

月一回のスカイプでの研究会を東京(学習院大学)、京都(立命館大学)と共同で継続的に行った。学習院大学、國學院大學、立命館大学、大阪大学の研究者、院生が参加し、ロンドンからは北斎プロジェクトのメンバーが中心となって作品の語釈、現代語訳と英訳を各グループ内で議論しながらすすめている。また、研究会で蓄積された語彙とその用例を蓄積していくためのデータ入力を別途すすめた。また、以上の研究成果のまとめとして、2月25日に学習院大学にて公開のワークショップを実施している。本年度までに公開に至らなかったことは非常に悔やまれるが、プロジェクト活動を通じた資料蓄積、研究成果である現代語訳、英訳をweb公開することが最終的な目標であり、ARCテクニカルサポートを通じて運用出来るシステムの構築を目指している。

さらに、研究計画では、ARC古典籍ポータルデータベースに画像マッチングシステムの導入をすすめてそれを用いた研究成果を報告する予定ではあったものの、今年度中に実際的なシステムの構築と活用までには至らなかった。しかしながら、ARCでは継続的にシステムの導入をすすめていることもあって、2018年度の研究期間では古典籍ポータルデータベースにある資料を活用しながら『北斎漫画』、『絵本櫛琴雛形』の版の変遷に関する研究を実施した。前者の資料では、版元である永楽屋東四郎が出版する版本を対象として蔵版目録の整理をすすめた。刊行年がはっきりとわからない後刷りのものでも、広告や蔵版目録に記載されている他の書の刊行年から刊行年が比定できる場合があるからである。『櫛琴雛形』は大英博物館本、ベルギー王立美術歴史博物館本の1880年代の再版本を比較し、どのように版が改変されたかについて報告会で紹介した。

## 6. 研究業績

## (2) 論文

・「Did Hokusai Create Manga?」、単著 松葉涼子、2019年5月刊行(2018年11月出版許可)、The British Museum and Themes and Hudson 『Manga』、pp. 278-287.

## (3) 研究発表等

・Ellis Tinios 「Explore the Roots of MANGA! Action in Print: Visual Narrative in Edo-Period Popular Literature」、2019年2月、JAPAN HOUSE LOS ANGELES、査読無。

・松葉涼子 「『富嶽三十六景』の出版背景」、2019年2月、東京国立博物館、査読無。

・Ryoko Matsuba 「Reading Images: Visual Conversation between Performances and Printed Images」、2019年3月、Rethinking Object and Performance in Japan and Beyond、九州大学、査読有。

## (4) 主催したシンポジウム・研究会等

・「READING *Ehon saishikitsu* (1)」、2018年6月19日、10人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (12)」、2018年6月27日、11人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (13)」、2018年7月26日、8人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING *Ehon saishikitsu* (2)」、2018年7月27日、10人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING *Ehon saishikitsu* (3)」、2018年8月27日、12人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (14)」、2018年8月28日、10人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING *Ehon saishikitsu* (4)」、2018年9月10日、8人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING *Ehon saishikitsu* (5)」、2018年10月26日、11人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (15)」、2018年11月7日、9人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING *Ehon saishikitsu* (6)」、2018年11月29日、10人、於:大英博物館、学習院大学